◇編集後記◇

平成三年度は、湾岸戦争の終結、旧ソ連邦の解体、環境問題、雲仙岳噴火など国の内外を問わず、様々な社会的変動・自然環境の変化が、人間という種の存在理由をあらためて問直す具体的発露となりました。

「社会」というシステムの中で生きる我々にとって、否応なしに時代の変化は個人の意志の尊重・尊厳を新たに認識させられます。あらゆる体制の再構築が不可欠となり、宗教という社会の中にあってもドグマチックに陥ることが、もはや一般社会と隔絶できない現状では容認され得ません。あらゆるパースペクティブな試みが繰り広げられている今、新興・既成という枠組みはもはや何の意味も持たず、我々、宗教にたずさわる者は、真摯にこの現状を踏まえた上で、その「有りかた」を探らねばならないでしょう。

このような現状にあって、本号が何らかの種子を提供できれば幸甚であります。

本学にとって憂うべきことは、一昨年病気により退職された若杉見龍先生が六月に世寿六十七才で、また本年二月には教授・事務長であられた林　是晋先生が世寿四十六才の若さで遷化されました。両教授の天夭を惜しみつつ、増圓妙道をお祈り申し上げます。

最後に、本学は同窓・会員各位の皆様のご支援に報いられるよう、新しい展望を模索しております。祖山とは申せ緑多き山裾の中、時代のニーズに答えられるべき人材の育成を至上として、長い伝統に裏打ちされながらも、新しい営みを築きあげる努力を続けてまいります。同窓諸兄・関係各位の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

（池上）